

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470202684
法人名	医療法人 ピーアイエー
事業所名	グループホーム つばい
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区坪井三丁目818番地の1 (電話)082-923-8387

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号		
訪問調査日	平成20年7月3日	評価確定日	平成20年7月22日

## 【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成20年07月03日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	人
職員数	8人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算3.6	

## (2)建物概要

建物形態	併設型	新築
建物構造	(準耐火鉄骨コンクリート)造り 2階建ての2階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(198,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

## (4)利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	5名			
要介護3	0名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	95歳	最低	76歳	最高	95歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	ナカムラ病院・平尾外科整形外科クリニック
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体は、歴史のある医療法人で「医療、福祉その他関連サービスを通じて＝幸齢社会を創造する＝」を運営理念としている。そのグループとしての融合的サポート体制が、このホームの利用者・家族等に安心と信頼感をもたらしている。今回の訪問で、運営母体の(理事)から「このホームは、この地区で最初に開設されたホームであり、全てにおいてナンバーワン(最高のもの)を目指している」との言葉も聞かれ、社会情勢および制度の関連に伴いこれに即し、地域に根ざした先進的ケアの取り組みが、各職員の動きにも見受けられた。今後もトップランナーとして気概と役割に期待されるものが大きい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で特に改善点は見当たらなかったが、更なるケアサービスの質の向上に結びつく、研修の強化につとめ、各種研修内容を職員全員で共有化し、現場に活かす取り組みが見られる。運営母体グループには、各分野の専門の医師・専門技術者も多いため、研修の取り組みにおいても、恵まれた環境にある。
重点項目	自己評価を形式的なものにしないよう、「なぜ、何のために」との目的意識を明確にして、スタッフ全員参加し、現状を注視し、みんなで考え、最適のケアに結びつける取り組みが生きている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	このホームの理事(精神科医)も会議には積極的に出席し、家族や地域住民に対して認知症についての正しい知識と理解の啓発活動が実践されている。また、この外部評価の調査内容を会議でも取り上げ、評価機関の選定についても参加メンバーから厳しい討議もあり、その討議内容がホーム便り等にも記載されている。関連各種資料および運営手法は、運営推進会議開催のモデル的存在ともいえる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	顔の見える介護。利用者の尊厳保持を基本に、プライドと責任を持つての対応。の職員教育も徹底しており、家族の意見・苦情等、ホームのみに留まらず、運営母体の専門の窓口および主治医をとおしてなど、幅広く受け入れ、即改善に結びつけている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	このホームも地域住民の一員である。との意識で、近隣地域との交流が自然体であり、違和感がない。とくに、このホームのある地域は、閑静な住宅街で、高齢化率も高く、ホームからの積極的な啓発活動もあり、双方あいまって、季節ごとの行事には、近隣のお宅から招待を受けるなど、相互交流も盛んとなり、利用者が地域で暮らし続ける支援の理想の形に近づきつつある。



## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この地区で、最初に開設したホームである。と言う職員全員に自負心もあり、そのパイオニアとして地域密着型サービスの推進に「幸齢社会の創造」の理念を掲げ、地域社会と共生の理念を具現化している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフのエプロンのポケットには、常に運営法人の「職員ハンドブック」が入っており、ミーティングおよび申し送りの際には「理念」の共有と、共通の価値観に基づく行動指針を確認し、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	このホームのある住宅団地は高齢化率も高く、「このホームの利用者も住民の一員である」の認識の下に、地元の人々との交流も積極的で、今後の高齢化問題を共に考えながら、この地域のリーダー役ともなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価に際しては、ミーティングおよびあらゆる機会を利用して、スタッフ全員で考え作成し、評価に対しての要改善事項には、すぐに改善向上に取り組む体制がとられている。また、次項(5)の会議の席にも取り挙げ、評価内容・評価機関の選定等についても綿密な討議がなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーにホームの理事長(精神科医)も加わり、運営推進会議を積極的に活用し、地域密着サービスの実践として、家族や地域住民に対する認知症についての正しい理解と啓発活動を行うなど、寄せられた意見・評価を日々のサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所(ホーム)の現状およびケアサービスの取り組みなど市の関係部署との連絡連携の取り、課題解決に向けての協働関係の推進が見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪の機会も多く、家族ケアの取り組みも強化されている。ホーム便り(つばい便り)を活用し、利用者の日常生活の様子はもとより、社会情勢の変化とホームの対応など幅広い視点から報告と交流がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の利用者の立場に立って、家族の意見・不満・苦情を受け入れる雰囲気作りがなされている。直接言いにくい場合は、運営母体の窓口を通じての対応も可能とする窓口の広い受け入れ体制も確立している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内全体での幅広い人事交流が行われているが、馴染みのスタッフのケアを基本に、入居者への影響を最小限にする、最適の人事異動に配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には幾つかの専門の研修委員会も設置され、年間研修計画も広い視野から体系的に組まれて、法人内部に専門分野の講師としての人材も多く、恵まれた研修環境にある。とくに、今年度は、研修結果を現場に生かすコミュニケーション手法の強化が計画されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム協会加入に加入している事業所との交流も実現し、お互いの見学受け入れや共同で救命救急講習会、新しく[AED]取り扱いの研修も加え積極的な交流の体制がくまれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居サービスの開始に際しては、本人および家族を含め、理事長(精神科医)自ら面談し、入居に際しての家族のあり方、家族支援などについてお互いに十分話し合い、納得した上でお互いの相互信頼により、ホームに馴染むよう、多様な工夫がなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の言動にはやさしく受容し、その生活ペースの応じたゆったりとした雰囲気づくりがなされ、人生の先輩としての尊厳を大切に、共生とお互いに支えあう生活場が随所で見られた。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>スタッフは、日々の共同生活のなかで、入居者のことばや非言語による感情表出を通じて、希望・意向を把握し、一人ひとりの生活ペースを大切にされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者主体に、家族の意見・要望も取り込んだ介護計画が詳細に組まれている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に、三ヶ月ごとの介護計画の見直しとなっているが、期間にとらわれず、変化に応じて臨機応変に検討見直しが行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体の総合的な機能の活用と医療連携体制を活かした柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な受診に向けて、本人および家族等の希望を大切に、かかりつけ医との情報交換を基に、通院介助の支援、訪問診療の受け入れなど、複数の医療機関との連携が密にとられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の面談・契約には、重度化した場合の対応や方針について家族との相互確認がされており、その後は、状態に応じた柔軟に取り組むとされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営母体が医療法人でもあり、看護・介護の基本は、個人の「尊厳」である。とする研修・教育が徹底しており、その先進的な各種取り組みが随所に見られる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が主人公として、一人ひとりの状態や思いに配慮した職員の動き、日々の暮らしの中に、安心感を与える支援が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングも広く、食卓もゆったりと設営されており、各利用者の得意なことを活かした食事準備への参加もあり、食事の際もユーモアに富んだ会話も飛び交い、食事を楽しむ一家団欒の雰囲気づくりの工夫が伺われた。 (評価員も共に会食した)		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では、夜間入浴の支援までは至っていないが、各利用者の体調や希望に応じた支援体制が組まれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の助勢、食事の準備、後片付けなど、共同生活における役割を見出し、利用者の活力引き出すきめ細かい支援の取り組みが見られる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近隣は、閑静な住宅地であり、近くのお地蔵様参り、鑑賞池の金魚の餌やり、公園の散歩など、各利用者の好みに応じた支援が見られる。とくに、近隣の理解も厚く、見守り、声かけなど連携体制の取り組みもあり、近隣地域全体が利用者の生活空間となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	上記、20 - 50の項にも関連して、個人の「尊厳」の厳守を基本として、近隣地域との連携もあって、鍵をかけないケアの取り組みが徹底している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営母体も含め、総合的な緊急時対応マニュアルも整備され、定期的に消防署および関連機関の協力を得て災害対策の訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営母体と連携して、毎月2日管理栄養士のアドバイスを得て、栄養管理と利用者の好み、生活習慣に応じた献立の見直しが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	福祉・医療に精通した専門の設計士によって、このホームは設営されており、木目を活かした「和」にこだわり、居室を含め・共用空間共に、居心地に留意した繊細な配慮が見られる。とくに、このホームは、高台に位置し、リビングから、瀬戸内海も眺望でき、建物を囲む長いウッドデッキの回廊は、四季の移ろいと共に歩む、快適な遊歩道の役目もはたしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カラーコーディネートに配慮された居室に、各利用者の生活スタイルに応じた馴染みの調度品も配置され、穏やかなホームの生活ぶりが拝見された。		



# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム つばい

評価年月日 平成 20 年 6 月 1 日

記入年月日 平成 20 年 6 月 9 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 氏名 川部 明美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念に基づき事業所で目標を設定し取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	グループ（医療法人）の理念行動指針を定めたハンドブックを全員が持ち、毎朝の申し送り時に読み合わせを行いケアサービスの向上に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	法人のコミュニケーション誌や運営推進会議でご家族や地域の方に理解していただけるよう働きかけている。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩中の挨拶を心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ご近所の家に招待されたり、公民館や小学校の行事に参加。母体施設のギャラリーやホールでの催しなどの地域交流に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人全体で協力体制を作っている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をとおして日頃を振り返り、ケアの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	評価内容や現状を報告しているが今のところ要望は特にない。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	広島市・区役所介護保険課の報告している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内で相談に対応する体制ができています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修や行動制限最小化委員会に参加し防止に努めている。虐待が見られたらインシデントによる報告をし再発防止に取り組む。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、相談員が説明し見学していただき理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	表情や行動から察知しそれとなく気持ちを聞いたり、全員で話し合える機会を設けて対応している。運営推進会議で報告する。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的な連絡及び個々の状態に合わせて適宜報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置や苦情処理の体制ができています。不満や苦情があれば運営推進会議で報告する。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日頃から提案を聞いたり、毎月のミーティングで話し合っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	母体施設と連携し柔軟に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人内の移動はあるが、馴染みの関係を保ち落ち着いた生活を送っていただけるよう配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人全体で年間研修計画を立て取り組んでいる。人事考課で段階に応じた育成研修を行っている。</p>		<p>研修への参加を増やしたい。研修報告をする。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者の見学受け入れや、事業者交流会に参加。区内のホームが集まり救命救急講習に参加している。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人の忘年会に参加している。月/1回のミーティング実施。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>人事考課で個々の目標を決め取り組んでいる。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>見学時に話を聞かせていただき情報を職員全員で共有できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	要望や相談をいつでも受けられるようにし職員全員でその方の情報を共有している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人内の相談員と一緒に対応し必要なサービス情報を提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	一緒にお茶を飲んだり、散歩がてら来ていただいたりして徐々に馴染んでいただくようにしている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながらか信頼関係を築き、お互いの言葉や感謝の気持ちを大切にしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	希望に合わせた支援をしてください。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	それぞれの生活状況を把握し、本人と家族の関係を損なうことのないよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的な会への出席や墓参が継続できるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士良好な関係が維持できるように支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も遊びに来ていただいたり、入院後の見舞いなどを続けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行動や表情、日頃の言葉から気持ちを汲み取り職員が情報を共有し本人の思いに添えるよう支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人はもちろんのこと家族からの情報、知人や親戚の面会時にお話を伺うなどして把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの状態を把握できるよう情報の共有を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見や要望をケアプランに反映させている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月ごとの見直しと状態の変化に応じ適宜見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や申し送り、連絡帳で情報を共有しケアに生かしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の機能を生かした支援や、ご希望があれば宿泊も受け入れている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署立会いの避難訓練を年2回実施。地域の方の見学の受け入れや、行事のボランティアをお願いしている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	法人内の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で情報交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望を聞き適切に対応している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体施設が老人性認知症専門病院。いつでも相談や治療が受けられる体制になっている。院内に歯科も併設。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人内の病院看護師にいつでも相談でき支援してもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	法人内の病院と連携している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応や方針を説明している。その後は状態に応じて話し合う。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>家族、主治医、職員で今後の変化に向けて話し合っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報交換しながらダメージを最小限にできるよう支援している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護法について研修あり。事業所玄関に個人情報保護に関するお知らせを掲示し、入居時説明し同意を得ている。</p>		<p>全員が研修を受ける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせたコミュニケーションを図っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員のペースにならないよう気をつけながら、希望に添った支援を心がけているが、やや不十分。</p>		<p>職員のペースにならないようにする。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望に合わせた支援をしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	外食や、季節の食べ物を取り入れ準備や食事、後片づけを一緒にしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みを把握して対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜間入浴は行っていないが、体調や希望に合わせて毎日入浴できる体制になっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安静時間を作ったり、個々の状態に応じた支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	金魚の餌やりやお地藏様参り、食事の準備や後片付けなど得意なことを喜んでしてください。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	本人管理や職員預かりなど、その方の力量に応じた対応を、本人や家族と話し合い決めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望を聞いたり、その日の状態や体力を考慮し出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	全員で出掛けたり希望者だけの外出もある。 墓参等は家族にお願いしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一人ひとりの電話の習慣や希望を把握し支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時お茶を用意しゆっくりと過ごしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で患者行動制限最小化委員会を設置し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。病院で点滴などの時は終わるまで職員が側に付き添い拘束のないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけない。玄関を開けると音楽が聞こえるようにし、安全面の配慮をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者を常に見守り、個々の行動や居場所を把握し安全面の配慮を心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じた取り組みをしている。刃物は夜間のみ目につかない場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアル有。法人内のインシデント委員会や安全対策委員会に参加し防止に向け取り組んでいる。		インシデント検討会に参加する。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	マニュアル有。救命救急講習会に参加し訓練している。		講習会参加を継続する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急時対応マニュアル有。非常食準備有。年2回の避難訓練を消防署の指導で行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時の説明やその時々が生じる事を説明し対応を話し合い記録に残している。		家族への報告漏れがないようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックと変化や異常は申し送りや記録に残し、必要に応じて主治医に相談し早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の内服薬説明書を用意し周知徹底している。変更や追加等全員が把握し確認できるよう記録している。		薬の副作用についての勉強
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食材の工夫や散歩。主治医と相談し本人の希望も考慮しながら便秘薬使用。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き支援。定期的な歯科受診と必要に応じて歯科衛生士の指導や助言が受けられる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月2回の管理栄養士による栄養指導と献立チェック。 一人ひとりの食事量や水分の摂取量を把握している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル有。 インフルエンザ予防接種実施。 法人内の感染対策委員会に参加し予防に向けて取り組ん でいる。院内研修参加。		研修への参加を増やしたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の 衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具の消毒徹底や、食材の賞味期限を管理し食中毒 予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出 入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	全体がバリアフリーで、各部屋からベランダに出られる ようになっている。玄関先にプランターを置き花を植え 季節を感じられるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真を飾ったり花を活け季節を感じられるようにしてい る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや食堂で皆さん思い思いに過ごしている。気の合う方の席を近くにするなどの配慮をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆さんそれぞれ好きなものを持ち込み過ごしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷やしすぎや暖めすぎがないよう温度調節し、換気を適宜行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全体がバリアフリーで手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの目印や、自室入り口に名前を書き本人がとまどったり混乱しないようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダから子供達の遊ぶ姿や畑の野菜を眺めたりそれぞれ楽しんでいただいている。		